

平成28年度

和歌山県立近代美術館の運営状況に対する評価書

和歌山県立近代美術館

1	展覧会（特別展）	2
	展覧会（企画展）	4
	展覧会（常設展）	7
2	調査・研究	12
3	作品・資料の収集	13
4	作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等	14
5	教育普及	15
6	国内外との連携	18
7	安全と快適性	19
8	入場者数と財源の確保	21

和歌山県立近代美術館評価様式（平成 28 年度事業評価用）

<p>美術館長による評価</p>	<p>今日、全国の公立美術館・博物館施設は、厳しい運営状況にありながらも、新たな視点の構築によって一層活発な活動が求められている。さらに 1980 年、90 年代に建設されたこれらの多くの館は、建物の老朽化問題も抱え、その対応にも迫られている。こうした状況のもとで、来館者の関心にも応えつつ、質の高い展覧会を開催して啓蒙普及につとめるとともに、こどもから高齢者までが気軽に来館し、参加する体制を強化することも必須の課題である。同時に和歌山県に位置する公立館として、地域文化の振興に寄与することも館活動の柱をなす。</p> <p>当館は、このような現状をふまえ、平成28年度には、特別予算による「動き出す！絵画」展を開催し、和歌山出身の北山清太郎の活動を軸に、わが国近代美術を再考する特別展覧会を開催し、高い評価を得た。加えて、造形美術作品のみならず、北山の「アニメーション作家」としての動向を核にして、映像作品も含めた新機軸の美術展覧会という観点からも高く評価されるものであった。また、本展覧会の冒頭に紹介した水彩画家・大下藤次郎について、「明治 150 年」の視点から再考し、平成 29 年度には、特別展「水彩画家・大下藤次郎展」を企画している。「動き出す！絵画」展の開催を機に、さらにこのような連続する視点をもつ展覧会を計画していくことも意義深いと思われる。</p>
<p>評価部会による評価</p>	<p>平成 28 年度は充実した事業の展開を行い、目標を上回る入館者を獲得するとともに、研究面でも成果を上げることができたと評価できる。大規模展が成功を収めた一方で、通常の企画展・常設展は事業経費の不足から活動に不十分な点もあり、改善が必要である。その中でも教育普及活動に対する多彩な取り組みは一定の成果を上げており、今後も継続した活動が期待される。所蔵作品のみならず施設の保存、改修にも具体的に取り組んでおり、活動の継続が望まれる。</p>

1 展覧会（特別展）

美術館長による所見	東京国立近代美術館他との共催による「恩地孝四郎 抒情とモダン」展は、当館が作品収集に重点をおく版画家・恩地孝四郎の満を持しての回顧展であり、海外に収蔵されていた作品をも発掘し、出品したはじめての機会であり、恩地孝四郎の個展の決定版として高く評価できる。 さらに特別展として開催した「動き出す！絵画」展については、すでに前頁の全体評価でも記したとおりである。当館のみならず、全国的に見ても、その構成内容は特筆すべきものとの評価を得て、その研究成果は、充実した論考を収めた図録にも反映された。また、本展覧会では、これまでにない広報活動をおこなったことも、来館者の動員に結びついている。
評価部会による所見	「恩地孝四郎展 抒情とモダン」、「動き出す！絵画」展ともに、これまでの美術館活動を基礎にしながら、今後のスタンダードとなる研究成果を広く一般に示す内容であり、高く評価できる。「動き出す！絵画」展と同等の広報活動ができれば、より多くの来館者に成果を示すことができたものと考えられる。

①特別展-1

恩地孝四郎 抒情とモダン

会 期：4月29日（金・祝）～6月12日（日）

会 場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成28年度目標	版画を中心に、装幀、写真など広範な領域で活躍し、近現代日本の美術に大きな足跡を残した恩地孝四郎（1891～1955）の画業を国内外から集めた約350点により回顧する。
自己評価・課題・改善案	版画を中心に、装幀、写真など広範な領域で活躍し、近現代日本の美術に大きな足跡を残した恩地孝四郎（1891～1955）の画業を国内外から集めた392点により回顧した。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成28年度目標	ポスター、チラシ、図録、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシ、図録、出品目録、展示解説、英語版概要等を制作した。

C. 関連事業

平成28年度目標	講演会を1回、フロアレクチャーを3回開催する。
自己評価・課題・改善案	講演会を2回、ワークショップを1回、フロアレクチャーを3回実施した他、装幀に関する特集展示を行った。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成28年度目標	20年ぶりの回顧展として充実した内容となるよう、関係機関との協働を進める。作品と作品が響き合うような展示空間づくりを工夫する。
自己評価・課題・改善案	約20年ぶりとなる回顧展を、海外からの里帰り作品や新出作品も含め、過去最大規模で開催することができた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成28年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	作品保護のための照度制限や温湿度制限が厳しく、十分な対応ができる設備の刷新と、作品細部を十分に示すことのできる照明器具の導入、除湿機の設置などの工夫も課題として残された。

F. 入館者数

平成28年度目標	4,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,198人

①特別展-2

動き出す！絵画 モネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち

会 期：11月19日（土）～平成29年1月15日（日）

会 場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成28年度目標	西洋美術が紹介される機会の増大にともない、自己表現の追求が高まりを見せた大正時代の美術を、岸田劉生や木村莊八ら若い画家たちの制作、発表を支えた和歌山市出身の北山清太郎の視点からとらえ直す。北山らが紹介した西洋美術の作品も交え、より多くの県民に美術に親しむ機会を提供する。
自己評価・課題・改善案	北山清太郎という地元出身の人物の業績を顕彰しつつ、近代美術に関わる地道な調査研究に基づく研究成果を活かした展覧会でありながら、専門家だけに留まらず、多くの一般来館者を迎えることができ、それぞれの立場で美術や作品への関心を深める展覧会とすることができたのは評価されよう。図録に掲載した宮本学芸員の論文が美術館連絡協議会の優秀論文賞を受賞した。174作品、資料98点、映像3本

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成28年度目標	ポスター、チラシ、出品目録、図録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシ2種類、図録、出品目録、鑑賞ガイド、音声ガイド、英語版概要等を制作した。チラシは和歌山市域を中心とする小中学校の生徒の手に渡るよう部数を確保し、配布を行うことで広報効果を高めることができた。また鑑賞ガイドや音声ガイドによって、来館者により展覧会を理解してもらえる工夫を行った。

C. 関連事業

平成28年度目標	講演会を1回、フロアレクチャーを3回、ワークショップを1回、開催する。
自己評価・課題・改善案	講演会を2回、コンサートを1回、フロアレクチャーを3回、こども美術館部を1回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成28年度目標	新聞社等と協力しながら、広報活動にも力を入れる。
自己評価・課題・改善案	これまでにない広報媒体も利用して内容の浸透を図った。今後も本展で行ったような広報活動を一層充実させていきたい。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成28年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	結界を新たに調達するなど作品の保全にも注意を払い、無事に会期を終えることができた。

F. 入館者数

平成28年度目標	10,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	19,013人

1 展覧会（企画展）

美術館長による所見	今年度「企画展」として開催した展覧会について、和歌山県ゆかりの作家の回顧展、さらに夏季の当館の恒例の展覧会として定着してきた「なつやすみの美術館」展、そして関西ゆかりの現代作家として活躍した泉茂を取り上げ、限られた予算の中でも大限の努力をし、多彩な内容の企画展を開催できたことは評価されよう。特に泉茂の回顧展については、関西の現代美術の動向を紹介してきた当館ならではの企画であり、将来的に、さらにこうした現代作家についての調査を重ね、展覧会として開催していきたい。
評価部会による所見	充実した内容の展覧会を開催しているものと評価されるが、収蔵作品以外の作品借用や十分な広報、カタログの製作ができないなど、経費面での問題が認められる。より広く活動を知ってもらうための工夫が必要である。夏季休暇中の展覧会の取り組みは特色あるものとして成果を上げているものと評価できる。

②企画展-1

宇佐美圭司回顧展 絵画のロゴス [平成 27 年度事業評価より再掲]

会 期：[3月1日（火）]～4月17日（日）

会 場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 27 年度目標	和歌山県にゆかりのある宇佐美圭司（1940-2012）の画業をアトリエに残された作品を中心に紹介し、青年期のドローイングから遺作まで、現代における絵画の意味を問い続けた制作の歩みを 61 点により回顧する。
自己評価・課題・改善案	作家が 2012 年に没してから関西では初めてとなる回顧展であり、癌と闘いながら制作された最後の作品を取り上げることで、業績の全体像を提示することができた。作品輸送費やカタログ制作経費の捻出も厳しく、他館が所蔵する代表的な作品の借用ができなかったため、十分にその業績を通覧するような内容にすることはできなかった。ご遺族の支援によりカタログを制作できることとなったが、展覧会開催の基本的な条件としてカタログや小冊子の作成について努力したい。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 27 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシ、出品目録を制作した。図録の制作に協力した。

C. 関連事業

平成 27 年度目標	講演会を 1 回、フロアレクチャーを 4 回開催する。
自己評価・課題・改善案	講演会を 1 回、フロアレクチャーを 4 回開催した。

D. （A, B, C 以外の）展覧会の工夫

平成 27 年度目標	制作時の年齢や同時代の美術、社会の状況を併せて考察できる展示を工夫する。
自己評価・課題・改善案	制作時の年齢をキャプションに書き込むなど、作家自身がどのように作品を変化させたかが見て取れるようにした。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 27 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	大型のキャンバス作品がほとんどで、カバーなしで展示を行ったが、床への結界表示により事故無く展示を終えることができた。

F. 入館者数

平成 27 年度目標	会期中 2,050 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,584 人（平成 28 年度は 852 人）

②企画展-2

なつやすみの美術館 6「きおくときろく」

会 期：7月2日（土）～9月19日（月・祝）

会 場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 28 年度目標	若年層を中心に楽しく美術に触れる経験ができる場を生み出す。
自己評価・課題・改善案	記録と記憶をテーマに、場所・人・物・時間・出来事・美術館という6つの章に分け、幅広い作品を選んで35作家208点を紹介した

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 28 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録、各種ワークシートを制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシ、出品目録、ワークシート3種、解説、英語版概要等を制作した。

C. 関連事業

平成 28 年度目標	フロアレクチャーを2回、こどもギャラリートークを3回実施する。
自己評価・課題・改善案	ワークショップを1回、フロアレクチャーを3回、こども美術館部を1回、こどもギャラリートークを2回開催した他、和歌山大学生による観賞ガイドツアーを24回実施した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 28 年度目標	主軸となる作品について、来館者の鑑賞をうながす言葉を提示する。
自己評価・課題・改善案	記録と記憶というテーマで美術作品を見ることで、異なる世代の対話も引き出すことができた。コレクションを中心に構成するシリーズであるため、前回までと同じ作品を出品することも多く、それをいかに魅力的に見せていくかが課題である。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 28 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	来館者が多い時期であり、また課題として工作を行う区画も設けたが、事故なく会期を終えた。

F. 入館者数

平成 28 年度目標	9,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	10,678 人

②企画展-3

泉茂 ハンサムな絵のつくりかた

会 期：平成 29 年 1 月 1 月 27 日（金）～3 月 26 日（日）

会 場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 28 年度目標	戦後のユニークな美術団体であったデモクラート美術協会での活躍からはじまり、叙情的な作風で評価された青年時代を経て、文学性を排除した晩年の明快な表現へ、実験的な制作を続け関西の美術を牽引した画業を紹介する。1 作家 150 点を予定。
自己評価・課題・改善案	デモクラート美術家協会での作品が高く評価され、1950 年代の版画家と印象が強い泉茂の画業を再考し、1960 年代以降の作風の展開も視野に収め、泉を知らない世代にとっても魅力的な作家であることを紹介した。大阪市内のギャラリーでの同時期の泉展に協力し、新たな層の集客を目指した。2 作家 174 点、資料 14 点

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 28 年度目標	ポスター、リーフレット、出品目録を製作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシ、出品目録、英文要項を作成した。

C. 関連事業

平成 28 年度目標	講演会を 1 回、フロアレクチャーを 2 回行う。
自己評価・課題・改善案	講演会を 2 回、フロアレクチャーを 1 回、小学生対象の鑑賞会を 1 回、コンサートを 1 回行った。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 28 年度目標	作者の人間性や魅力も伝わるように、作品とともに写真や書簡等の資料を紹介する。
自己評価・課題・改善案	没後 20 年を過ぎ、泉を知る世代と知らない世代の間の双方ににその仕事をあらためて紹介することができた。コンサートや講演の充実をはかった。図録に対する要望が多く、これに応えることが過大である。この展覧会をきっかけに、油彩画が少なかった当館の泉茂作品に新たな作品を加えることができた。毎朝開館前に監視員へのレクチャーを行い、監視員の意欲と観覧者の満足度を高めることにつなげた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 28 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	出品作品・資料・来館者の安全確保を行った。

F. 入館者数

平成 28 年度目標	3,950 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,205 人

1 展覧会（常設展）

美術館長による所見	<p>常設展として美術館がコレクションしてきた作品を紹介する場合は、いわば美術館の生命線であり、当館では、常設展である「コレクション展」を継続して1階展示室で開催し、美術館におけるコレクションの意義を問いかけてきた。こうした常設展を優先して会場構成を行う公立館は、全国的にも例はなく、「美術館の顔」としてのコレクションを優先する展示構成を、今後も継続して行っていきたい。</p> <p>今年度は、近現代の版画作品が、当館コレクションのひとつの柱を形成していることをふまえながらも、これまでほとんど紹介される機会のなかった「謄写版印刷」を取り上げ、評価を得ることができた。また、特別展「動き出す！ 絵画」と連動し、特別展の時代背景となった大正期の日本画や版画作品を紹介したことも、コレクション活用の好機となった。5回の展示替えを行ったすべての「常設展」に「特集展示」を加え、コレクションによる小企画展としての性格を付与できるよう配慮した。</p>
評価部会による所見	<p>企画展的なコーナーを設けて興味を引く部分と、常に見ることができる作品展示のバランスをうまく取って、コレクションを面白く見せる工夫が凝らされている。収蔵作品の魅力をより広く一般に伝える努力を続けていただきたい。</p>

③常設展-1

コレクション展 2016- 春 特集：謄写版印刷工房から- 印刷と美術のはざままで [平成 27 年度事業評価より再掲]

会 期：[3月29日（火）]～5月29日（日）

会 場：展示室 A・B（1階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 27 年度目標	<p>常設展示 和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を紹介。さらに特集展示に合わせて、創作版画をはじめとする様々な版画作品ならべ、版画技法のバリエーションを見比べられるように展示する。展示点数：70 作家 90 点</p> <p>特集展示 かつて、生活の一番近くにあった印刷術である謄写版をとおして美術の世界に入っていた人たちの姿により、美術が身近であることを示す。和歌山ゆかりの謄写版画家清水武次郎のコレクションを持ち、関連作家の作品を収集してきた当館ならではの展示とする。展示点数：10 作家 80 点</p>
自己評価・課題・改善案	<p>常設展示 和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示するとともに、特別展「恩地孝四郎展」に合わせて、田中恭吉、藤森静雄の油彩画や、「一木会」の作家の作品等関連作品を展示し、恩地と同時代に活躍した仲間の作品や、後世に与えた影響がわかるように工夫した。展示点数：80 作家 126 点。</p> <p>特集展示 謄写版で印刷業を営む人々の間から美術作品としての謄写版画が生み出された過程を紹介し、「恩地孝四郎展」にあわせ、彼が創作版画を提唱して活動していた同時期に、商業印刷に携わる印刷工房からも版画が生み出されていたことを示した。器材や教材資料も展示し、手仕事の様子に観客の想像が及ぶように工夫した。展示点数：9 作家 124 点、資料 17 点など。</p>

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 27 年度目標	<p>常設展示 出品目録を制作する。</p> <p>特集展示 リーフレット・出品目録を制作する。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>常設展示 出品目録を制作した。</p> <p>特集展示 出品目録、英語版概要を制作した。</p>

C. 関連事業

平成 27 年度目標	特集展示 フロアレクチャーを 2 回実施する。スライドレクチャーを 1 回実施する。
自己評価・課題・改善案	<p>常設展示 フロアレクチャーを 1 回実施した。</p> <p>特集展示 フロアレクチャーを 3 回実施した。</p>

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

平成 27 年度目標	常設展示 解説キャプションや解説パネル、作家解説を充実させることによって、魅力的で充実した展示を工夫する。 特集展示 謄写版とはどのような印刷術=版画技法だったのかをわかりやすく示し、その日常性から、観客に現代の生活のなかにある技術から美術が生まれてくる可能性を伝える。
自己評価・課題・改善案	常設展示 当館の豊富なコレクションを生かして、1 階・2 階にある展示室の両方で恩地孝四郎の世界を紹介することができた。 特集展示 謄写版がコピー機等の普及によって姿を消すのと同時に、版画技法としても忘れられつつあるなか、資料を発掘して手仕事の凄さを示すことができた。また新たな表現が試みられることを願ってこの技法を次の世代に伝えようとする活動も紹介した。今後は印刷史全体を視野に入れ、産業の現場から美術が生まれてきたことをさらに紹介したい。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 27 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	作品、来館者の双方の安全に配慮し、事故なく会期を終えた。

F. 入館者数

平成 27 年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,972 人[前年度からの総計 4,112 人]

③常設展-2

コレクション展 2016- 夏 特集：ドローイング- 水彩・パステル・紙の世界

会 期：6 月 7 日（火）～9 月 4 日（日）

会 場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 28 年度目標	常設展示 コレクションの特色を生かし、所蔵作品への理解を深められるようテーマを設けながら近現代美術の秀作を展示する。展示点数：50 作家 100 点。 特集展示 紙に鉛筆や水彩絵具、パステルで描かれたドローイングを紹介し、学校教育において誰もが接したことのある材料から生み出される作品の多様さを示す。展示点数 40 点
自己評価・課題・改善案	常設展示 来館者の多い時期に当たるため、作品の保全に配慮しつつ見やすい展示空間になるように工夫した。和歌山ゆかりの作家を交えて日本の近代美術の歴史を概観し、戦後から現代にかけては海外作家の作品も交えて紹介した。また版画作品で季節の風物を描いた作品のコーナーを設けた。64 作家 78 点 特集展示 学校の夏季休暇中に開催されることを考慮し、鉛筆や水彩絵具など多くの人が使った経験のある画材による作品により構成した。同時に、現代美術においてドローイングが重視されていることに鑑み、描写の直接性と計画性という 2 面から表現の特質を紹介した。また彫刻作品とドローイングを並べて紹介することで、展示が単調になることを避けた。32 作家 87 点

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 28 年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	出品目録、英語版概要を制作した。

C. 関連事業

平成 28 年度目標	特集展示 フロアレクチャーを 3 回実施する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示あわせてフロアレクチャーを 4 回、こども美術館部を 1 回開催した。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

平成 28 年度目標	常設展示 季節感を感じさせる作品を紹介する。 特集展示 水彩画や下絵にとどまらず、独自の表現領域ととらえられるドローイングの展開を紹介する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 事業費の限られた中で、会期中全面的な展示替えを行うことはできなかったが、それでも日本画のコーナーの 7 点と版画を展示したコーナーの 16 点は展示替えを行った。当館の豊富なコレクションを再確認し、展示のテーマや新たな構成を今後も試みていきたい。 特集展示 素材に対する親しみを入口に、例えば鉛筆という同じ画材を用いて、自分にでも引けそうな単純な線から複雑な描写まで、表現には大きな広がりがあることが伝えられた。作家や作品に対する興味を更に上げられるような材料を提示することが課題である。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 28 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示とも作品と来館者の安全確保に努め、事故なく会期を終えた。

F. 入館者数

平成 28 年度目標	5,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	11,432 人

③常設展-3

コレクション展 2016- 秋 特集：薔薇色の鏡- 銅版画の技と表現

会 期：9 月 13 日（火）～11 月 3 日（木・祝）

会 場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 28 年度目標	常設展示 コレクションの特色を生かし、所蔵作品への理解を深められるようテーマを設けながら近現代美術の秀作を展示する。展示点数：60 作家 100 点 特集展示 銅版画を集め、その技法が複製印刷術から美術表現の手段へと推移する様子を紹介する。展示点数：15 作家 80 点
自己評価・課題・改善案	常設展示 所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示した。34 作家 120 点 特集展示 創作版画を源とする美術作品としての銅版画にどのような背景があるのかを示す。作品から読み取れるデリケートな表現が、複製技術のために開発されてきたテクニクであることを、パンフレットで解説し、作品の前で過ごす時間を長くした。46 作家 87 点

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 28 年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 出品目録を制作した。 特集展示 出品目録、解説パンフレット、英語版概要を制作した。

C. 関連事業

平成 28 年度目標	常設展示 フロアレクチャーを 1 回開催する。 特集展示 フロアレクチャーを 2 回開催する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示あわせてフロアレクチャーを 2 回、こども美術館部を 1 回開催した。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

平成 28 年度目標	常設展示 同時期に「なつやすみの美術館」「県展」を開催するため、当館コレクションの名品と和歌山を意識させる作品を展示する。 特集展示 資材等の展示により銅版画の技法について具体的にイメージできるようにする。
自己評価・課題・改善案	常設展示 展示作業委託費が縮小したため、一部のみの展示替えであった。来館者が期待する変化を持たせることを、コレクション 2016-夏の展示をもとに試みた。イベントごとに印象を変える「催し物会場」としての展示室ではなく、パーマメントコレクションのための場所と意識した。また、動線のため、「薔薇色の鏡」の展示のあとに観覧することになる最後のコーナーでは、コレクションの中から銅版画の名品、および新収蔵作品の紹介を行った。 特集展示 まず、貴重な個人コレクションから、江戸時代以降の印刷術であった銅版を駆使した資料を拝借し、書籍や地図など、精緻な印刷術としての銅版を紹介した。その実用的な印刷術のなかからデザインの意識、美術への志向が芽生えてきた様子を探り、戦前の木版画中心の創作版画運動のなかでの銅版画の独自の魅力、戦後の銅版画家たちの活躍を紹介することで、普段から触れている身近な技術が、芸術の手段となる可能性を示すことができた。毎朝開館前に監視員へのレクチャーを行い、仕事への意欲を高めることができた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 28 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示とも出品作品・資料・来館者の安全確保を行い、事故なく会期を終了した。

F. 入館者数

平成 28 年度目標	5,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,258 人

③常設展-4

大正の異色画家たち

会 期：平成 28 年 11 月 19 日（土）～平成 29 年 1 月 15 日（日）

会 場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 28 年度目標	特別展「動き出す! 絵画 モネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち」の第二部としてコレクションを中心に大正期の個性的な作品を紹介する。
自己評価・課題・改善案	特別展「動き出す! 絵画」展と同時代の美術の動向や、以後の展開を示し、館蔵作品の魅力を新たな視点から伝えることができた。69 作家 176 点を出品。

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 28 年度目標	出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	出品目録、英語版概要を制作した。

C. 関連事業

平成 28 年度目標	フロアレクチャーを 3 回開催する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを 3 回開催した。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

平成 28 年度目標	日本画や版画など、特別展では触れられない作家やジャンルの作品を紹介し、大正期の美術をより重層的に紹介する。
自己評価・課題・改善案	洋画が紹介されている「動き出す! 絵画」展に対して、日本画や版画を多く紹介し、大正期の美術についてより広い視点を提示した。館蔵作品から代表的な作品を選ぶよう配慮した。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 28 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	出品作品・資料・来館者の安全確保を行った。

F. 入館者数

平成 28 年度目標	7,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	12,916 人

③常設展-5

コレクション展 2017- 春 特集：群像- 交錯する声

会 期：平成 29 年 1 月 27 日（金）～3 月 31 日（金） [5 月 7 日（日）]

会 場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 28 年度目標	常設展示 コレクションの特色を生かし、所蔵作品への理解を深められるようテーマを設けながら近現代美術の秀作を展示する。展示点数：50 作家 80 点 特集展示 コレクションの中から群像を描いた作品を展示し、そこで交錯する人の心に迫る。展示点数：20 作家 40 点
自己評価・課題・改善案	常設展示 新収蔵品を積極的に紹介するとともに、同時期に開催した企画展「泉茂 ハンサムな絵のつくりかた」に合わせ、泉が活動したデモクラート美術家協会の作家たちのほか、同時代の重要な美術団体である具体美術協会の作家たちの作品を紹介した。展示点数：57 作家 80 点 特集展示 ひとつの画面に多くの人物を描いた作品を特集し、複雑な構図の面白さや、時代や社会によって変化する人物表現を紹介した。展示点数：29 作家 47 点

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 28 年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示とも出品目録を制作した。

C. 関連事業

平成 28 年度目標	常設展示 フロアレクチャーを 1 回開催する。 特集展示 フロアレクチャーを 2 回開催する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示あわせてフロアレクチャーを 3 回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 28 年度目標	常設展示 同時期開催の企画展に関連するコーナーを設け、理解を深められるようにする。作家解説、作品解説を充実させる。 特集展示 構図について図解するパネルを作成し、構成力が問われる群像表現の魅力を読み解く。
自己評価・課題・改善案	常設展示 新収蔵品を積極的に紹介するとともに、同時期に開催した企画展「泉茂 ハンサムな絵のつくりかた」に合わせ、泉が活動したデモクラート美術家協会の作家たちのほか、同時代の重要な美術団体である具体美術協会の作家たちの作品を紹介した。フロアレクチャーへの参加者が少なく、効果的な広報が課題として残った。 特集展示 比較的珍しい「群像」という切り口によって、その成立背景や歴史的展開についても調査し、紹介することができた。作品解説、構図解説を充実させることが課題である。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 28 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故なく会期を終えたが、彫刻作品の展示について、鑑賞と保全の双方に配慮することが課題である。

F. 入館者数

平成 28 年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,442 人[平成 28 年度内 2,994 人]

2 調査・研究

美術館長による所見	美術館業務の根幹を成す調査・研究を活発に行うためには、学会等への参加のための旅費や科学研究費、各種民間財団の研究助成など外部資金の獲得も課題となる。さらに研究紀要の復活など、予算的な充実は欠かせない。また、学芸員の研究成果の発表となる展覧会図録の刊行も必須の課題であり、こうした様々の問題を解決するために、大学等研究機関との連携、さらには公立館として、科研費獲得のための研究機関としての体制の確立などを積極的に推進していきたい。
評価部会による所見	地道な調査研究活動が、常設展、企画展の内容に結実している点が、この美術館の特色として高く評価できる。「動き出す！絵画」展が美術館連絡協議会のカタログ論文賞を受賞したことは、それを裏付ける成果である。

①調査・研究

A. 美術史等についての調査・研究件数

平成 28 年度目標	美術史等についての調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	学芸員各自がそれぞれの主題に関する調査・研究を行った。(協議会資料 16 頁 ①1)

B. 外部研究機関・団体等と共同した調査・研究

平成 28 年度目標	外部研究機関・団体等と共同した調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	1 件の調査・研究を行った。(協議会資料 16 頁 ①2)

②調査・研究成果の活用

A. 展覧会・教育普及活動等への成果の反映

平成 28 年度目標	展覧会・教育普及活動等に成果を反映する。
自己評価・課題・改善案	3 件の成果があった。(協議会資料 16 頁 ②1)

B. 学術的公表 (館研究紀要・報告書・学会誌・インターネット等)

平成 28 年度目標	学術的公表(館研究紀要・報告書・学会誌・インターネット等)を行う。
自己評価・課題・改善案	6 件の学術的公表を行った。(協議会資料 16 頁 ②2)

3 作品・資料の収集

美術館長による所見	限られた購入予算の中でも、清水登之の《ヨコハマ・ナイト》や、野長瀬晩花、恩地孝四郎ら、当館が収蔵をすすめてきた作家の作品を継続して収集できたことは評価される。また、泉茂、鈴木久雄等、展覧会の開催を機に寄贈される作品が継続して行われていることも貴重である。
評価部会による所見	清水登之作品《ヨコハマ・ナイト》のような希少な作品が収蔵できたことは、地道な調査研究と相まって系統的な収集活動を続けてきた成果である。寄贈作品が充実している点も、寄贈者からの評価が高いことを裏付けるもので、収蔵スペースに工夫しながら活動を続けることが望まれる。

①作品・資料の収集

A. 美術作品収集方針に沿った作品・資料の収集（コンプライアンス、収集手続き）

平成 28 年度目標	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行う。
自己評価・課題・改善案	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行った。収蔵庫の狭溢化に伴い、保管方法の工夫と注意が課題である。

B. 購入、受贈に係る作品・資料の点数、内容

平成 28 年度目標	購入・受贈において作品・資料の点数、内容が適切であるようにする。
自己評価・課題・改善案	購入 6 点・受贈 64 点で、点数、内容ともに適切であった。（協議会資料 17-18 頁）

②図書資料の収集・公開

A. 図書資料の収集、研究や閲覧への活用

平成 28 年度目標	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用する。
自己評価・課題・改善案	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用した。（協議会資料 20-22 頁）

4 作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等

美術館長による所見	当館では、保存科学系の専門スタッフが配置されていないにもかかわらず、収蔵庫・展示室などの温室度管理、さらには虫害・防黴など対して、学芸員の意識も高く、これらの作業が継続して行われていくことを期待する。また、収蔵作品には、修理に際して、高額な経費を要するものも確認され、今後こうした作品も含めて、文化財の保存という観点から、さらなる検討課題の解決に向けて努力したい。
評価部会による所見	作品の修復は計画的、適切に行われているが、突発的な破損への対応も今後必要である。また施設の保存環境の更新にも取り組まれていることは評価できる。

①作品・資料の状態調査

平成 28 年度目標	作品・資料の状態調査を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	展示、貸出の機会にあわせて継続的に所蔵品の状態を調査し、保存上の対策を必要とする作品については、マウントや額裏板の改良・交換を中心に処置を進めた。(協議会資料 23 頁)

②作品・資料の保存環境

平成 28 年度目標	作品・資料にとって適切な保存環境を保ち、整備する。
自己評価・課題・改善案	これまでの数年間に蓄積したデータをもとに、季節、天候による環境の変化から起こる虫菌害を抑えることができた。計画的な清掃にあわせ、毎月のトラップによるモニタリングの結果によって対策を加え、良好な保存環境を実現しつつある。空調設備の老朽化に伴う環境の不安定要素への対応が課題である。(協議会資料 23 頁②)

③作品・資料の保存修復

平成 28 年度目標	作品・資料に対し適切な保存修復を行う。
自己評価・課題・改善案	展示予定作品を中心に修復計画を立て、効果的な修復を行えた。また、作品の保存に適した素材を使った額装も進んでいる。さらに油彩作品の修復等を進め、展示と保存に適した状態に近づけることが課題である。(協議会資料 23 頁③)

④作品・資料の管理

作品・資料の管理 (台帳・データベース)

平成 28 年度目標	作品・資料の管理(台帳・データベース)を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	作品・資料の管理を適切に行った。

⑤作品・資料のデータ公開

平成 28 年度目標	作品・資料のデータを公開する。
自己評価・課題・改善案	展覧会出品目録、新収蔵作品目録を年報に掲載した。

5 教育普及

美術館長による所見	教育委員会や学校等各教育機関の現場、さらには和歌山大学教育学部などの連携によって、活発な教育普及活動を継続して展開し、目標値を大幅に上回っていることは、高く評価できる。今後は、こうした活動を行うに際して、より強力な広報を行っていくことが期待される。
評価部会による所見	様々な取り組みを行っており評価できる。館内活動の普及はセキュリティの問題を意識して行ってもらいたい。また友の会の活動については、内容を見直す時期かもしれないので検討を願いたい。

①学校・団体鑑賞の受入

A. 受入回数

平成 28 年度目標	120 件を目標とする。
自己評価・課題・改善案	218 件を受け入れた。(協議会資料 24 頁①)

B. 参加者数

平成 28 年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	5,832 人が参加した。(協議会資料 24 頁①)

C. 鑑賞教材等の制作

平成 28 年度目標	展覧会にあわせて鑑賞教材を制作する他、教員への利用促進案内等を制作する。
自己評価・課題・改善案	「なつやすみの美術館」展で鑑賞教材を 3 種類制作した(協議会資料 7 頁「制作物」)。「動き出す! 絵画」展にあわせて鑑賞ガイドを制作し配布した(協議会資料 8 頁「制作物」)。

②講演会・解説会等

A. 講演会等の回数

平成 28 年度目標	25 回を目標とする。
自己評価・課題・改善案	43 回実施した。(協議会資料 5 頁～14 頁)

B. 講演会等の参加者数

平成 28 年度目標	500 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	1,149 人参加した。

③ワークショップ・バックヤードツアー等の体験的プログラムやコンサート

A. ワークショップ等の回数

平成 28 年度目標	6 回を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4 回実施した。(コンサート 1 回、ワークショップ 2 回、バックヤードツアー 1 回)

B. ワークショップ等の参加者数

平成 28 年度目標	80 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	174 人が参加した。

④ 県民や地域との連携

A. ボランティア活動の受け入れ

平成 28 年度目標	図書ボランティアの活動を受け入れる
自己評価・課題・改善案	延べ 120 人の活動を受け入れた。(協議会資料 24 頁④1)

B. 友の会等の支援組織の活動への協力

平成 28 年度目標	友の会、NPO 等の芸術文化支援組織の活動に協力する。
自己評価・課題・改善案	和歌山県立近代美術館友の会によるバックヤードツアーや、和歌山芸術文化支援協会によるワークショップなどに協力した。(協議会資料 24-25 頁)

C. 学校・教員等と連携した事業

平成 28 年度目標	地域の教員等と連携して和歌山美術館教育研究会を組織し、中学校での宿題としての展覧会利用やワークシート製作など多様な取り組みを行う。和歌山大学教育学部と県教育委員会の連携事業の一環として、和歌山大学教育学部、同附属小学校・中学校と連携して展覧会を課題とした鑑賞、制作、指導法の策定に取り組む。和歌山市美育協会に協力し、鑑賞に関する研修会を開催する。学校教員との協力体制の強化を目的とした研修会を継続して開催する。
自己評価・課題・改善案	和歌山美術館教育研究会を 7 回開催するなど、学校や教員と連携した事業を実施することができた。(協議会資料 26-27 頁)

D. 地域と連携した事業

平成 28 年度目標	地域と連携した事業を行う。第 70 回 和歌山県美術展覧会(県展)、第 2 回ジュニア県展を文化学術課との連携のもとに実施する。県警音楽隊たそがれコンサートへの事業協力を行う。マジカルミュージックツアー等イベントへの事業協力を行う。
自己評価・課題・改善案	第 70 回和歌山県美術展覧会、第 2 回ジュニア県展を実施した他、県警音楽隊たそがれコンサートやマジカルミュージックツアーなどへの協力を行った。(協議会資料 27-29 頁)

E. 県内博物館・図書館施設等と連携した事業

平成 28 年度目標	県立 4 館が連携して風土記まつりを実施する。図書館を含む県立 5 館でスタンプラリーを実施する。「和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議」の一員として活動する。
自己評価・課題・改善案	県立 4 館が連携して風土記まつりを実施した。また図書館を含む県立 5 館でスタンプラリーを実施した。「和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議」の活動に参加した。和歌山県文化振興財団の主催事業に協力した。

F. 観光資源として活用できる方策

平成 28 年度目標	近隣の宿泊施設にチラシ等を配布し、利用についてアピールする。
自己評価・課題・改善案	県内各地の教育委員会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ等への利用アピールを行った。

⑤ 人材育成

A. 博物館実習生・インターンシップ・教員研修などの受け入れ

平成 28 年度目標	博物館実習生・職場体験学習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
自己評価・課題・改善案	3 大学 3 名の博物館実習生、延べ 80 名の職場体験学習およびインターンシップ、3 名の教員研修等を受け入れた。(協議会資料 29-30 頁)

⑥機関誌「NEWS」の刊行

平成 28 年度目標	機関誌を年4回定期的に刊行する。
自己評価・課題・改善案	合併号を2回発行した。(協議会資料 30 頁)

⑦県民への直接的情報提供

A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)への対応

平成 28 年度目標	専門的内容に関する問い合わせ・質問(電話・来館等)に対応する。
自己評価・課題・改善案	24 件に対応した。(協議会資料 30 頁)

⑧メディア等への情報発信

A. 掲載件数、メディアへの広報・情報提供活動、番組制作等への協力

平成 28 年度目標	掲載 150 件を目標とする。メディアへの広報・情報提供活動を行う。番組制作等に協力する。
自己評価・課題・改善案	新聞・雑誌に 196 件掲載された。

⑨WEB による広報

A. ホームページアクセス件数・更新回数・工夫

平成 28 年度目標	ホームページ月間ページビュー数 15,000 件、更新回数は 24 回を目標とする。ホームページに工夫する。
自己評価・課題・改善案	ホームページ月間ビュー数は約 28,000 件、更新回数は 18 回であった。

B. メールマガジン等の発行回数・工夫

平成 28 年度目標	12 回を目標とする。メールマガジンに画像を加える等の工夫をする。
自己評価・課題・改善案	メールマガジンは 10 回発行。Facebook のいいね! は 1,482 件、twitter のフォロワーは 2,885 件、記事書込み 306 件。

⑩広報印刷物の制作

A. ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動

平成 28 年度目標	ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動を行う。
自己評価・課題・改善案	広報印刷物を制作し、情報提供・広報活動に努めた。

6 国内外との連携

美術館長による所見	<p>当館の豊かなコレクションに、全国の美術館から展覧会への貸し出し要請も多い。今後、まとまった作品数を、美術館に貸し出す予定があるとともに、滋賀県立近代美術館から、現在施設改修のため休館中であるため、当館に貴重な収蔵作品の保管要請があり、常設展にて展示公開を行っている。</p> <p>今後も開催される特別予算による大規模展の開催に際しても、当館は、国内外の美術家から作品を借用しなければならない。そのためにも国内外の関係機関との連携構築は、館運営の重要な柱となる。</p>
評価部会による所見	<p>展覧会の調査や作品の借用と貸付を通じて、他館や外部の組織との連携が行われた。また広報活動を通じても様々な協力を得たことは評価できる。連携を事後に活かせるよう努力が求められる。</p>

①他機関への作品・資料の貸出し

平成 28 年度目標	他機関へ作品・資料を貸出す。
自己評価・課題・改善案	9 件の展覧会に作品の貸付を行った。(協議会資料 32-36 頁)

②国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開

平成 28 年度目標	国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開を行う。
自己評価・課題・改善案	5 件の事業を実施した。(協議会資料 36 頁)

7 安全と快適性

美術館長による所見	開館20年余を経て、当館のみならず、全国の公立館は、「安全と快適性」を推進するため、施設・設備の改修による長期の休館を余儀なくされている。当館も例外ではなく、空気調和機器の取り替え、さらに省エネルギー対応にもともなう LED への照明器具の更新も急がれる。また、地震対策としての免震台の導入、建物のガラス面への飛散防止の対応等、緊急を要する課題もある。
評価部会による所見	施設の老朽化についてはその都度適切に対応がなされているが、大規模な改修も視野に入れる時期にある。地震などの災害対策も含め、対策の計画が必要である。

①施設・設備の維持管理

A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等による安全確保

平成 28 年度目標	施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等によって安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンスを行い、経年劣化等による必要な修繕についても順次修繕を行うことにより、安全確保を行った。

B. 施設・設備の改修や新たな整備

平成 28 年度目標	開館後 22 年の経過による各設備老朽化に対し、修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	経年劣化等による必要な修繕を行うとともに、破損箇所が多くあった点字ブロックの取替修繕を行い、障がい者の安全確保のための整備を行った。

C. 日常的なメンテナンス等による施設的美観の保持・衛生管理

平成 28 年度目標	日常的なメンテナンス等により施設的美観の保持・衛生管理を行う。
自己評価・課題・改善案	日常的なメンテナンスを行い、設備の保持を行った。また、正面玄関壁面や入口付近の清掃を実施し、施設的美観等衛生管理を行った。

D. 長期修繕計画

平成 28 年度目標	長期修繕計画に基づき、計画的に修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	屋根の防水、トイレ、空調設備等修繕を予算範囲内で実施した。また、今後必要な大規模な修繕として、展示室照明器具更新、空調設備更新、収蔵庫増設工事の修繕計画を作成するとともに、計画が予算化されるよう、県財政当局と折衝していく。

②快適性の向上

A. バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応

平成 28 年度目標	バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応を取る。
自己評価・課題・改善案	点字ブロックを改修した。

B. 利用者に対する接遇

平成 28 年度目標	利用者に対し適切な接遇を行う。接遇の向上を図る。
自己評価・課題・改善案	利用者に対する接遇を適切に行うよう職員に指示した。

C. 快適性向上のための上記以外の取り組み

平成 28 年度目標	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、改善を図る。
自己評価・課題・改善案	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、改善を図った。

③危機管理

A. 危機管理・防災体制

平成 28 年度目標	危機管理・防災体制について、実地訓練等を行う。同体制について日常的な取り組みを行う。
自己評価・課題・改善案	地震防災訓練及び火災避難訓練を実施した。

B. 個人情報の保護・データ管理

平成 28 年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	展覧会等関連イベント参加者及び学芸員育成にかかる実習生の情報管理を適切に行った。

④職員研修

A. 館内外の研修参加実績

平成 28 年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加できる体制をとる。研修参加は各職員あたり 2 回以上の参加を目指す。
自己評価・課題・改善案	機会がある毎にできるかぎり研究会に参加した。

⑤情報公開・利用者のニーズなどの把握

A. 使命、目標、計画などの方針の公開

平成 28 年度目標	使命、目標、計画などの方針をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	http://www.momaw.jp/mission.php に公開している。

B. 実績や評価結果の公開

平成 28 年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	http://www.momaw.jp/assessment/assessment.php に公開している。

C. 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の把握

平成 28 年度目標	入館者情報の把握を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより入館者情報の把握を行った。

D. 利用者の満足度・ニーズなどの把握

平成 28 年度目標	利用者の満足度・ニーズなどの調査を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより利用者の満足度・ニーズなどの調査を行った。

E. 調査結果等を反映した運営

平成 28 年度目標	満足度・ニーズなどの調査結果を反映した運営を行う。
自己評価・課題・改善案	階段や床の汚れを清掃した。

8 入場者数と財源の確保

美術館長による所見	今年度は、入場者数において、特別展の開催効果も重なり、目標数を上回ることができた。しかし、入館料収入については、むしろ達成目標を下回る結果となり、反省点もある。また、外部資金の獲得も厳しく、今後さらなる努力が必要であり、入場者数のさらなる増加、そして外部資金の獲得など、実現に向けてあらゆる方策を探っていききたい。
評価部会による所見	優遇措置を設けているため無料の来館者が多くなっているが、博物館法に照らせば教育普及のためになるべく多くの人に見てもらふ努力の結果とも言える。より多くの来館者を得られるよう更に取り組むことが求められる。また科学研究費助成事業に応募できる資格を取得することも検討を要する。

①入場者数

A. 入場者数

平成 28 年度目標	入場者数は 52,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	入場者数は 71,518 人で目標を大幅に上回った。

②予算の確保

A. 入館料収入 達成率

平成 28 年度目標	当初予算 10,047 千円に対する達成率を 100 パーセントとする。
自己評価・課題・改善案	入館料収入は 9,584 千円、達成率 95.4 パーセントで目標を達成できなかった。今後は広報活動の充実を図り、有料入館者数の増加を目指す。

B. その他の収入確保

平成 28 年度目標	駐車場収入 7,201 千円、行政財産使用料 1,589 千円、その他 2,746 千円を目標とする。
自己評価・課題・改善案	駐車場収入 8,382 千円、行政財産使用料 1,583 千円、その他 1,449 千円で、駐車場収入が目標を上回った。今後は美術館・博物館の利用促進を図るため、広報活動の強化を図る。

C. 外部助成金等の獲得

平成 28 年度目標	助成金 1,000 千円を目標とする。
自己評価・課題・改善案	外部助成金については、今年度はどこからも獲得できなかった。今後は獲得に向け、さらなる努力を行っていく。